

DOKU-GAKU 掲示板

由佳ちゃんからお便りが届いています。

由佳

しばらくご無沙汰してしまったままですが、
毎号 DG 楽しみに読ませてもらってます。
この春に長男が高校生になり、次男が小学校 4 年生になりました。
私も、4 月で次男の小学校の PTA 副会長職が終わり、
私自身は元気にはしているのですが、去年の夏に兄にガンが見つかり、
世界がひっくりかえるくらいの衝撃を受けました。

椎間板ヘルニアの再発だと思っていた兄の腰痛は、
原発不明ガンの骨転移、しかもステージ 4 の末期ガンと判明。
まずは、骨に転移したガンの原発がどこにあるのか探すために、
様々な検査を行いました。
腫瘍マーカーや骨シンチグラフィで原発のガンが見つからず、
がんセンターのお医者もさじを投げてしまい、別のがんセンターを受診、
また検査や治療の相談をする日々がしばらく続きました。

その頃、兄はある知人に数ヶ月前に言われた言葉を思い出していました。
「あなたのおばあちゃんがね、首に気を付けなさいってあなたに言ってる」

どうやら、見えないものが見えるらしいその人は、
亡くなった父方の祖母がすぐそばにいて、兄の首のあたりを心配している、
と兄に言い、病院に行くことを強く薦めたらしいのです。
でも、兄はもともと椎間板ヘルニアの持病があり、首ではなく腰が痛いので、
その言葉を聞き流していたようです。

わらにもすすがる思いで、首周りに原発病変がないか検査を願い出て、
エコー検査をしてもらったのですが、このときは原発がんを見つけることが出来ませんでした。

八方ふさがりになった兄ですが、
ガンが転移した腰骨がくしゃみをした拍子に圧迫骨折してしまい、
がんセンターに緊急入院することになりました。
そのときにガン化した骨を直接採取、生体検査で病変に顎下腺の組織があることがわかり、
原発がんは顎下腺がんだと特定できました。

なぜ、骨シンチグラフィや腫瘍マーカーで原発ガンが見つからなかったのか、兄も家族も納得できなかったのですが、お医者話によると顎下腺の原発がんは2mmほどで、見つけることが難しい大きさだそうです。でも転移は全身の骨に広がっているという状況で、お医者話、もう手の施しようがないと、終末医療の説明を受けました。これが、去年の7月から9月くらいまでのお話。

現在、ガンが見つかってから9ヶ月ほどが経ちました。お医者話の見立ては、兄の年齢（44歳）や、転移の広がりを見ると、どんどん内蔵への転移が進み、すぐに緩和ケア病棟に入院になるだろうということでした。ですが、今までガンの転移は一切見られず、体重増減もなく、食用旺盛です。腰骨が折れたあとのリハビリ中であること、骨が折れやすいこと、を除けば、とてもガン患者や深刻な状況には見えないです。このことを、お医者さまが首をかしげている状態です。

いつまで兄が生きていられるのか、なぜ転移がないまま過ごしているのかお医者さまにもわからないのですが、結果的にがん三大治療（手術・放射線・抗がん剤）をやらなかったことが、兄には良かったかもしれないと思います。厳密に言うと、治療を「やらなかった」のではなく「やれなかった」のですが。。

兄は、ガンだと宣告されてから今までずっと、冷静で前向きです。私は要所要所で、例えば「その見えないものが見える人は何なの!？」とか「その人は治し方は教えてくれないの？」とか「がんセンターの医者なのになぜわからない？」とかいろいろ突っ込みたくなるのですが、兄は「オレの身体が人生の棚卸しをしてもっと上手く生きろって言ってる」と言います。

兄の姿には、本当に周囲のみんなが逆に励まされてる始末です。そして、母があまりに情緒不安定になってて、実は兄より母のケアが大変だったりします。。

身体って本当に不思議です。兄の病気にあたり、免疫関係の本を読みあさりしましたが、身体のことってまだよくわからないことも多いんですよね。兄を見て思うのは、良く食べて良く笑うこと、いろんなことから自分の幸せを見出すことが、免疫力を向上させているようだ、ということ。ガンに限らず、免疫が適切に働くことはとても大切なことです。良く笑って良く食べて、幸せを見出すこと。免疫がどうこう、の前に、より良く生きる方法、とも言えそうです。

《映画クイズ解答》

前号解答は

1—眉山 **2**—精霊流し **3**—夏解 **4**—アントキノイノチ

でした。

今月の賞品は映画「僕等がいた」A7クリアファイル4枚セットです！
今月も応募待っています。



うさお

記者クラブ予想

この企画はうさおにはやや難しい。ポリティカルな意識が薄い上に、経済も疎い。政党が変わったって世の中は変わらないと思っている。技術士の試験に社会資本についての記述を求められるが、これがいつも苦勞するところ。あらかた外れたしね。

軍艦島探訪記

「行きたかったぜ、端島！」TVドラマのキャッチのように叫んじゃうよ。この海は嵐のときに全島が潮が被るところ。鉄筋コンクリートが風化するのも無理もない。消え行くもののノスタルジーか。※「しお」って潮とか汐とか、時間を表しているのかなあ。

トマソン隊じゃないから 萬燈除夜編

夜祭とか、除夜とか普段は出歩かない時に歩くと興奮して軽くドーパミンが出ます。昼間に赴くと、やけに明るくてわくわく感が消え去ります。コンサートを夜行うのとか、普段と違う場所で行うのも、そんな効果を狙っているんじゃないのかなあ。

ZARD-DINER

彼女が生きていれば、どこかの町で会えたかもしれない。声を掛けて知り合いになれたかもしれない。ザードの曲も彼女が亡くなってから聞くようになった。彼女を綺麗だと思ったのは彼女が40歳に喃喃としてからである。遅きに失したとは思わないが惜しい！

映画カレンダー

うさおも60歳を過ぎたので、年齢を証明するものがあれば1000円で映画を見れるのだが、今の時間差上映のシステムが身に馴染まない。だから、よほどの映画でなければ映画館に脚を運ばない。ツタヤに行ってDVDを借りるほうが楽だが呆けるかも。

17文字の抒情詩

情感が最近沸かない。歳をとったせいかわり余り吃驚しない。重大事に自分の中に如何でも良いやという気持ちが出る。不味いんじゃないかなあ。呆けの兆候だと何かで読んだ記憶がある。やはり一緒に歩いてくれる茶色いけだものが居ないといい句が詠めない。

ビーズな毎日

最近キャラクターものが多くなったので、親しみ感があります。以前はブランド物でしたから、どこぞのバチものを飾ってある後ろめたさを感じておりました。(いや、今だって著作権は侵害していますが…)ビーズの色使いが何か変わりました？



ミスチルばがぼんど

このバンドの師とも言えるコバタケ氏が、環境保全に意識が向いておりエコを心掛けている。Cacco も太陽光発電や風力発電などまだ効率は高くないエネルギー源の見学に積極的に行きます。

表紙は語る

原発事故以降の放射能汚染を、植物の力でクリーンにしようとする運動が盛んです。が、成果は数十年先でしょう。鳥類にはもう突然変異の兆候が現れています。それにも私たちは馴れていくのでしょうか。

読書リスト

健ちゃんは横浜の鶴見区に住んでいますが、「横浜中央図書館」で本を借りています。鶴見区にも立派な市の図書館がありますが、そこでは借りません。鶴見だと住んでいる人の品格で本が汚い？



みなさんの投稿お待ちしております。

次号もDGもよろしく。

2012年月 6月1日発行

発行人 読書を楽しむ会

印刷・製本 M's factory